# 東北ブロック居住支援連絡会議　第3回ポイント勉強会（令和8年7月28日開催）
# 質疑応答（概要）

（質問1）
実際に認定を受けた皆様から、認定後、日々の業務に関する変化などの反応が伝わってきていたら、聞かせていただけないでしょうか。
（回答1）
グループワークをやっていく中で、今まで知り合えなかった人、例えば不動産分野の人などと知り合えたといった声を聞きました。それから、意外に感じたのは、認定証を大事に持っていただいてると聞いたことで、すごくうれしく思いました。

（質問2）
協議会が設置されていないところでも、コーディネーターをきっかけとして協議会設立の取組につなげていきたい、というお話もありました。そういう方とも協力して、各地で取組を推進していくようなイメージは、元々お持ちだったのでしょうか。
（回答2）
居住支援協議会が設置されていない地域からも、多くの認定を取得していただいています。居住支援協議会の設立支援というところで、せっかくこのコーディネーターの育成研修を受けた方々がいらっしゃるので、設立に関しても力を借りようと考えており、呼びかけをしようと思っています。

（質問3）
居住支援の取組には地域性があると感じている。
今回のように、例えば空き家を使ったり、賃貸住宅を使ったりして、そのような配慮者の住宅を確保することは、過疎化が進んでいる地域では課題も多く、一つのセオリーに乗っけて進めることのできない難しさがあると感じています。
人口の少ない地域からの参加者もいるようなので、そういうところでの活動を意見交換して共有していくことも大事だと感じました。
（回答3）
居住支援っていうと、どうしても賃貸住宅に入居させるためにはどうすればいいのか、という発想になってしまうと思います。住まいは賃貸だろうが、持ち家だろうが、単身だろうが家族だろうが関係なく、その方が長く地域に住み続けるためにはどうすればいいのか、住宅関係の方、福祉の方、民間事業者や行政の方、いろんな方々がその人の生活という視点に着目して考えるのが居住支援と考えています。地域によっては賃貸住宅が少なかったり、空き家が多かったり、地域事情はそれぞれ異なるので、わが町の居住支援があっていいと思います。
また、それらを共有していければと考えています。

アンケート中の質問について

1　コーディネーター育成研修の財源

➢ 神奈川県居住支援事業として、国土交通省の「居住支援協議会等活動支援事業補助金」を活用しています。
近年、補助金が減少傾向であることから、今後、会費の徴収など運営方法を検討する必要があると考えています。

2　グループワークのバリエーション

➢ グループワークのグループ構成で一番意識しているのは、「地域」です。
研修後も連絡が取り合える仲になってもらえるように、近隣地域で活動している方々で構成するようにしています。
その中でも、グループにおける職種のバリエーションは、不思議なことに、「行政職員」、「包括等の相談機関の職員や相談員」、「居住支援法人職員」、「不動産店社員」とほぼ均等になっています。
（仮に全体のバリエーションが不均衡だった場合は、「行政職員だけのグループ」や「不動産店だけのグループ」を作って、他のグループと発表内容を比較するのも面白いと思っています。）